

薪ストーブ焚き始めました。

ENTRANCE でまったり、暖かいひと時を。



冬季は人が集まり心も体も温まる薪ストーブ

復興ボラセンが運営するコミュニティスペース「ENTRANCE」では、10月中旬から早くも薪ストーブを焚き始めました。そんな今を過ごしているENTRANCEは、今月でオープン1周年を迎えます。

ご存知の方も多いかと思いますが、ENTRANCEは2年前の震災後に「安平町の未来への入り口となる拠点」として多くの方の支えのもと誕生した場所です。ENTRANCEの冬季シーズンの「顔」として活躍している薪ストーブも、この場所を改修する際に復興ボラセンで挑戦したクラウドファンディングで集めたお金によって設置することができたもの。日本全国から安平町を応援してくださっている多くの

方々の想いがこの薪ストーブには込められています。また、暖を取るために欠かせない「薪」は、地域の方々からご好意でいただいているもので「うちにある薪はもう使わないから持って行っていいよー!」「木を切ったから好きなように持って行ってー!」など、ありがたい声をたくさんいただき、復興ボラセンメンバーで引き取りに伺っております。また、声をかけてくださった町民の方が自ら手伝ってくださることも多く、薪を通して町民の方と繋がり、交流できる機会にもなっています。

日本全国の応援してくださっている方々、地域住民の方々の心強い支えがあってENTRANCEの温かい空間が生まれています。

感染症対策を十分に行って運営をしておりますので、一段と寒くなっていくこれからの時期。ぜひお気軽にENTRANCEに足を運び、暖を取りに来てください♪



町民の方とともに薪割り、引き取り、運搬を行う。

「災害ボランティア」サポート継続中。

“町民同士で支え合う”活動が増えてきています。



① 10日に行った際の災害ボランティアの様子

10月10、11、17、24日に、災害ボランティアの活動が行われました。仮設住宅の入居期限が迫っているということで、仮設住宅やみなし仮設に住まわれている方の引越作業を中心に活動。新型コロナウイルスの影響で、災害ボランティアセンターでは現在、町外のボランティアさんの受け入れが難しい状況であり、ボランティアの募集を町内の方に限定して周知を行っています。

復興ボラセンとしても活動のお手伝いをさせていただいておりますが、最近ではこういった状況を知って、災害ボランティアの

活動に参加する町民の方が増えてきています。「自分の町の問題をいつまでも町外のボランティアさんに頼ってばかりもいられない。こういう時こそ自分たちが動いて、困っている町民の手助けをして支えなければいけない」という想いを持って活動している方もいらっしゃいました。依頼者の方も「自分たちではどうすることもできなかった。改めてボランティアさんのありがたさを感じました」と話されていました。今後、町民同士で支え合える関係性をもっともっと広がって欲しいなと思います。



② 10日に行った際の災害ボランティアの様子



(一社) 安平町復興ボランティアセンター
TEL: 070-3139-0374
MAIL: abira.fukkouborasen@gmail.com



ENTRANCEから
ワクワクする情報お届け中!

記事提供
編集・校正

安平町復興ボランティアセンター
安平町役場総務課情報グループ